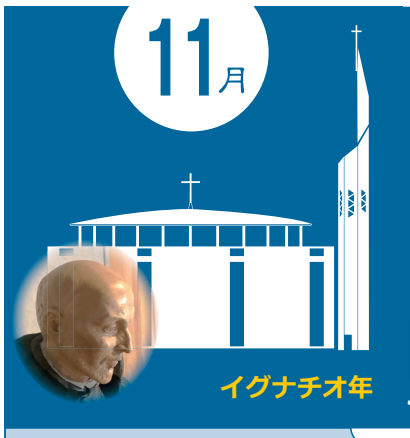
NO.720 2021　　聖イグナチオ教会報



カトリック麹町教会

magis

Ignatius Soo

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

2021年度 教会テーマ

困難の中で、イエスとともに希望の扉を開いていこう
祈り、つながり、協働する　2030年に向けて一歩ずつ

聖イグナチオと私

わたしの小道、それぞれの小道

イエズス会司祭　岩島忠彦

典礼聖歌に、「神よあなたの道を示し、あなたの小道を教えてください」という一節があります。ここでは、わたしが歩んできた「小道」をふり返ってみたいと思います。

わたしの小道

わたしの父は銀行員だったので、子供の頃は2・3年に一度転勤を繰り返していました。父は48才で亡くなったので、母は兄姉と私を連れて親戚が多い神戸に引っ越しました。私は小学5年生でした。その頃、地区の中学で暴力事件が起こり、そこを避けるために、イエズス会経営の六甲学院に通うことになりました。父がもう少し長生きをしていたら、わたしたち一家はキリスト教に触れ合うこともなかったと思います。

神父様方の熱心な指導で、季節外れの6月20日、同級生と二人だけで、修道院の小さな聖堂で洗礼を受けました。わたしたちは高一でした。洗礼を受けて以来、このことがどうでもいいことではなく、本気で取り組むべき事柄であると考え続け、18才、高校卒業時にはイエズス会に入る決心が固まっていました。志願期の2年を上智で過ごし、20才で広島にあった修練院で修道生活を始めました。

入会した頃のエピソードです。修練院のいたるところに聖イグナチオ像や聖画があり、頻繁に「AMDG」の4文字が目につきました。「より大いなる神の栄光のために」という意味です。本誌Magisも「より一層」という意味です。これを見たとき最初はある違和感を持ちました。それは神さまが「全知全能の創造主」であるなら、なぜこれ以上に「栄光」が必要なのか?という疑問でした。その時自分ではすべてを福音に懸ける決心をしていたと思います。しかしやはりどこか自分中心な思いがあったのでしょう。人は長い年月を経て育っていくのでしょう。

修練の後、哲学期、中間期、神学期以降はドイツ中心で10年余りを過ごしました。それぞれに新しい視野と友情に恵まれた時期でした。すべてを終えて上智大学神学部で教えることになりました。その時、当時の聖イグナチオ教会の主任司祭カンガス神父様にお願いしました。「自分は大学で教えるために司祭になったわけではありません。どんなことでもいいから教会のお手伝いをさせてください」と。それ以来、神学部と聖イグナチオ教会という「二足の草鞋」が続きました。上智で教えたのは30年余、さらに福岡のサン・スルピス大神学院で4年教え、今は40年余続いた聖イグナチオの講座と月一の主日ミサだけが残っています。自分ももうすぐ78才、体力の衰えも感じます。幸い各講座、よいヘルパー方に恵まれ、今年も講座等を続けてこられました。これからも精一杯イエズス会司祭の道を全うしていきたいと思います。これが「わたしの小道」です。

それぞれの小道

一人ひとりにはその人だけに与えられた「小道」があるのだと思います。しかしわたしたちキリスト信者にとって、どの道も、同じ天の父に通じるものだと思っています。

教会報 MAGIS 11 月号

† 教会祭 2021「希望」　P2-3
† 信徒 特別寄稿「ヨセフ年」　P4
† イグナチオ年特集⑤　P5
† 特別寄稿「聖イグナチオと私」　P6
† 訃報　三浦功神父　P7

共同体を生きる

【１１月の共同祈願】

キリストに従うように招かれた
わたしたち一人ひとりが、どんな時にも
キリストが共にいてくださることに感謝し、
キリストの愛に応えて、与えられた使命を
果たしていくことができますように。

担当：図書グループ

ミッション 2030　－前文－

私たち聖イグナチオ教会は、祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。

現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見いだしにくい反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。

私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、老いも若きも）、福音の喜びを分ち合っていく使命を生きていきます。

2021年　教会祭

コロナ禍の中、「希望」をテーマに イグナチオ年を祝う

2021年の教会祭として、10月10日（日）11時よりインターナショナルミサ、13時よりさまざまなイベントが主聖堂にて行われました。昨年同様、非公開、オンラインで配信され、ミサは日本語、英語、スペイン語、ベトナム語の4つの言語で執り行われました。イベントは神父様が語るイグナチオ、お便りの紹介、ポルボロン教室など盛りだくさん、あっという間の約2時間でした。（担当　H）

4つの言語で　インターナショナルミサ

英隆一朗主任司祭司式のもと、4つの言語で合同ミサが行われました。スペイン語の入祭唱が流れるなか司祭団が入堂され、「この教会はさまざまな文化や言語を背景に持つ人々が集う教会です。普段はそれぞれの言語でミサを行っていますが、今日は皆がひとつになる意味のあるミサです」と英神父のお話からミサが始まりました。

聖書の第一朗読はベトナム語、答唱詩篇は英語、第二朗読は日本語、アレルヤ唱はスペイン語、福音朗読は日本語、説教は英神父（日本語）、ボニー・ジェームス神父（英語）、グエン・タン・ニャー神父（ベトナム語）、ハビエル・ガラルダ神父（スペイン語）が順番に話をされました。

▶祭壇の前で4つの言語で唱えられた共同祈願。スペイン語とベトナム語の祈願者は民族衣装を身につけて

英神父はイグナチオを例にあげ、「イグナチオの希望はいつも行きづまったところから生まれました。戦争で大ケガをした時、イスラエルに永住しようとした時、勉強を始めようとした時、自分の望みどおりになったことは一度もありません。プランAはいつもうまくいかず、プランBを選ばざるをえませんでしたが、あきらめることなく、いつも『プランBは何？』と考えていました。イグナチオは〝プランBの聖人〟と呼ばれているんです。どうしようと思った時にこそ希望が生まれ、新たな展開が見えてきます。そこに神さまの導きを見出して歩んでいきたいと思います」と話されました。

共同祈願も各言語で唱えられ、ピアノ、ギター、フルートによる演奏とともに4つの青年会による歌が流れました。

英神父は「来年は皆で集まり、プランAで教会祭をやりたいと思います。希望を持ちながら、一年間を歩んでいきましょう」としめくくられ、閉祭の歌はベトナム語で歌われました。

新しい形の教会祭　オンラインイベント

主聖堂のパイプオルガンを背に放送席が設けられ、「本来の教会は祭りが多く、ごちそうやおしゃべりを楽しむ機会があるのですが、今年はオンラインだからこそできるイベントを楽しんでください」という英神父様のあいさつから始まりました。司会は日本語を中心に、英語、スペイン語の通訳も交えながら進行され、最初に登場されたシスター景山あき子は「イエスにしがみついていれば大丈夫！　コロナ禍だからこそできることを大事にしましょう」と話されました。

5人の神父様のイグナチオ・デ・ロヨラ

ダニエル・コリンズ神父様、プラチド・イバニエス神父様、ヘネロソ・フローレス神父様、李聖一神父様、酒井陽介神父様が、「イグナチオってどんな人？」「神父様にとってのイグナチオとは？」という2つの質問に答えるインタビュー動画が配信されました。我こそはとイグナチオについて熱く語る様子はさすがイエズス会士です。インタビューの様子は、配信をごらんください。

お便りの紹介
あなたにとっての「希望」とは？

あらかじめ募集していた本年度の教会祭のテーマ「希望」について、抜粋して紹介されました。11歳から大正15年生まれの方まで、「カラフルな絵」「祈り、み旨にまかせること」「すべての人が自分の人生の主人公であること」「神さまがともにいて、生かし、許してくださると信じること」など、心に響く言葉を皆で分かち合いました。

口の中でホロッと溶けるお菓子ポルボロン

ある青年信徒の「ポルボロンが食べたい！」という一言から企画されたイグナチオ・デ・パントリー教室。ポルボロンは60年前にシスターアスンシオンが教えてくださったスペインの伝統的なお菓子で、以来、レシピを変えずポルボロンの会に受け継がれています。パントリーと中継をつなぎ、製作中の楽しげな様子がライブ配信されました。レシピは上記のQRコードの動画に記載されています。

カマキリ神父様こと柴田潔神父様も登場され、難民支援のために育てているかぶと虫についてお話をされました。サプライズゲストの李相源神父様と池尻廣幸神父様は広島の祇園教会から参加され、懐かしい話に花が咲きました。最後にネット配信に尽力されたボニー神父様が「失ったものもあるけれど、与えられたことも多かった。ネットを通してつながることができたことは大きな喜びです」としめくくられました。

青年共同体より　イグナチオ・ユース・デー国際ミサに参加して

教会祭に先立って行われたインターナショナルミサで活躍した青年共同体。８月に行われたユースデー国際ミサでも、国を超えての活動に取り組んでいました。その時の感想が寄せられていますのでご紹介します。

日本語青年会　佐瀬（まどか） 円香

言語を越えて一致し、ともに祈ることの素晴らしさを体感しました。イグナチオの回心に心を向けることで導いてくださるイエスに出会い、言語が異なる私たちが同じ聖歌を歌い、ともに祈ることで、イエスに向けて心を一致させることができました。世界中の私たちを愛しておられるイエスを心に刻むことができた体験でした。

インドネシアグループ　アロイシャス・アゲゥン

聖イグナチオの回心500周年を迎えた今年は、私にとってより意味のある特別な年となりました。この記念すべき年に、私はイグナチオ的教授法をもっと実践しなければならないと思いました。今回の経験を振り返り、うまくいった、あるいはうまくいかなかった行動を計画し、評価するための十分な時間を得ることができました。主にイエズス会の教育機関で使われる教授法ですが、私たちが社会に出た後も続いていると信じています。それは自分自身を成長させることはもちろん、共同体にとっても有益であり、また愛と正義を広めるためにキリストの代理人となることを助けてくれます。

国際青年会　鎌仲（かまなか） 聖羅（せいら）

このミサでは、教会にこんなに多くの多様な青年がいるんだ！という驚きと、共に神様を礼拝できる喜びがありました。温かな賛美の音色に包まれて、何も持たずしても、ありのままの自分自身で、神様に仕えていく生き方へと招かれていると感じました。人生がうまく行かない時こそチャンス！というメッセージに強められて、歩みを続けようと思います。

ベトナム青年会　ホアン・ダン

正直、私はこのミサに参加できて本当に恵まれていると感じました。その恵みがいつ、なぜ始まったのか？　私は今でもその答えを喜んで探しています。その日、私はミサの準備で悩み、ストレスを感じていた人が、ミサの成功で真の喜びを感じたのを見ました。 言葉は違っても、同じ信仰のもと共に歌い、共に祈ることができることを世界に示したのです。私たちは同じ教会に入り、聖体の食卓を囲みました。そしてキリストにあって本当にお互いを知ることができました。

私はこれまでに起こったすべてのことは、私の夢を現実のものにするための、また輪をつなぐための部分だったのだと恵みを感じました。ただただ神様に感謝です。

ヨセフ年

〈信徒　特別寄稿〉「ヨセフ年」によせて

聖ヨセフがカトリック教会の保護者として宣言されてから150年を迎えるにあたり、教皇フランシスコは2020年12月8日から2021年12月8日を「ヨセフ年」とすることを宣言しました。これを記念して、当教会に所属する信徒を代表して、お二人の信徒の方に「聖ヨセフ」について寄稿していただきました。

（担当S）

聖ヨセフに近づくように

森本　基（もとい）

今から50年前、娘の学校に「宗教について考え、神父様の話を聞く会」、現在の「パパの広場」が誕生しました。ちょうど娘が小学2年生に在学中であり、妻の後押しもあって、初めて聖イグナチオ教会のカンガス神父様、山本襄治神父様の教えを拝聴することとなりました。その後、フローレス神父様、ガラルダ神父様にもご指導をいただいております。

その頃の私は、恥ずかしながらイエス・キリストの存在は知っていたものの、カトリックとプロテスタントの区別すら明確には解らず、聖母マリアとの関係も正しくは知りませんでした。ましてや養父ヨセフのことなど、知る由もありませんでした。「パパの広場」に通い出してから聖書に興味をもつようになり、神父様のお話が大変面白くなりました。

身の危険を感じとったヨセフは生まれたばかりのイエスとマリアを連れてエジプトに逃れ、王の死後ガリラヤ地方のナザレに行き、そこで愛に満ちた平和な家庭を築きました。これが聖家族で、すべての家庭生活の規範と仰がれています。また聖ヨセフの優しさあふれる勇気を持った姿は、父親としての理想像となったことでしょう。

「パパの広場」で聞いた神父様のお話が、家庭で子どもたちとの話題となるようになりました。その話を学校でシスターに報告した娘たち。そして「パパの広場」で、にこやかに嬉しそうに私たちに話してくださったシスターの様子を思い出しております。

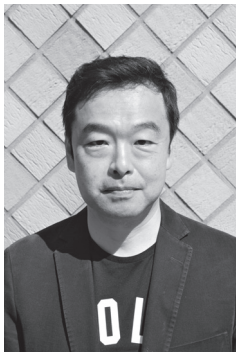
学校での教育を理解し家庭の平和を願ってスタートした「パパの広場」ですが、本当の狙いは、私たち父親に、聖家族に、そして聖ヨセフに一歩でも近づくようにとの、シスターの篤い祈りのうちにあったことを、今になってようやく気づかされております。

聖ヨセフと私

大橋　一将（かずまさ）

このテーマとのご縁に感謝しています。私が受洗を願ったきっかけは、長女が通った学校の父親の会「ヨゼフ会」で拝聴した神父様のお話だったからです。

「99匹を置いて、一匹の羊を探しに行かないであろうか」というイエス様の福音に強く心を打たれ、私も神の子の一員として加われたら、と受洗のきっかけをいただきました。別の神父様から「暗闇で明かりを灯すことが出来るかどうかです」と、父親としての心の在り方に気付きをいただいたこともございました。



「ヨゼフ会」に感謝する私ですが、聖ヨセフについては知ることが少なく、聖書を読み返しました。ルカ2：49にある、12歳のイエス様と3日間もはぐれてしまったマリアとヨセフがエルサレムの神殿でようやく見つけたイエス様に「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」と言われてしまう一節に出会いました。

イエス様も私の子どもたちも、両親の子であると同時に神さまの子です。私が神さまと出会うきっかけをつくってくれた長女は、この9月から14歳でブダペストでの暮らしを始めました。12歳のイエス様を捜した聖ヨセフの心境ですが、神さまの大きな世界の中で、子どもたちが神さまと人とに愛されて過ごしてくれたらと願います。

子どもたちや聖書から教わってばかりの未熟な父親ですが、聖ヨセフのようにわが子の成長を見守っていきたいと思っています。

Ignatius500
イグナチオ年

聖イグナチオの伝記⑤
エルサレム巡礼

主任司祭　英　隆一朗

行動の人、巡礼者イグナチオ

マンレーサで神の恵みを受けた後、イグナチオは巡礼の旅に出る。バルセロナから船に乗り、イタリアを徒歩で渡り、再び乗船して、聖地エルサレムに向かう。

「神がきっとエルサレムへ行くために配慮してくださるという確信を心の中に持っていた」（自叙伝42）

彼の話を聞いた人々の中には、同伴を願い出る者や、多額の旅費を寄付する者も出た。しかしながら、イグナチオは、「神だけを頼ることがかれのせつなる念願だったので、ひとりで行こうと決めた。・・・そのような考えから、ひとりで乗船するのみならず、まったくなんの用意もせずに行きたいと思った」（自叙伝35）。現代では考えられないが、全くの無一文で旅に出たのである。

イグナチオは行動の人である。ただ頭で勉強するだけでなく、実際に行動して、体全体で会得していくタイプだ。現代人がネットで情報を得るだけで何かを知ったような気分になっても、実際は何も身に付いていないのと対照的である。黙想にしても、巡礼にしても、実際に体験してみて初めてその素晴らしさを体得できるのだ。

実際、厳しい旅であった。船旅では暴風雨にあい、ペスト大流行の地を徒歩で横断し、兵士などから手荒い扱いを受けた。無一文の旅は生命の危機に直面することと裏腹であった。安心安全が全くない道である。彼は「神がきっとエルサレムへ行くために配慮してくださるという確信を心の中に持っていた」（同42）。そして、実際に聖地エルサレムにたどり着いたのである。

キリスト中心の霊性

彼が神だけにしか頼らなかったからこそ、「引っ張られて道を歩いている間、キリストが上方から常に見守っておられるのを見て、主から大きな慰めを受けた」（同48）。全くの無一文の困難な巡礼だったからこそ、生きたイエスの姿を何回も目撃し、深い慰めが与えられた。巡礼の実りは、イエス・キリストとの深い絆である。

イグナチオの霊性には、きわめて強いキリスト中心主義がある。エルサレム巡礼の動機は、イエスが実際に活動した場に身をおきたいという強い望みであった。この姿勢は、イグナチオの『霊操』の中に現れている。特に第2週以降の観想では、主キリストとそのまわりの情景を思い浮かべ、あたかも自分がそこにいるかのように観想するとある。観想の中で、私たちもイエスの姿をありありと見て、そこから霊的力を汲むことができるのだ。

行き詰まりから新しい道へ

イグナチオはエルサレムに生涯留まりたいという願いをもっていた。永住し、多くの人々の霊魂を救いたいという強い決意である。ところが、エルサレム周辺はいつの時代も情勢が不安定であり、明日は何が起こるか誰も分からないところだ（今もそうだが）。聖地を管理していたフランシスコ会の神父は、イグナチオの望みを聞いたとき、トラブルメーカーの滞在によって大きな混乱を心配したのであろう。滞在を認めず、巡礼団とともにイタリアに戻るように命令する。

プランAはかなえられない。彼はやむなくヨーロッパに戻ることにして、プランBを選択せざるをえなかった。それは、人々を霊的に救うために司祭になることだった。そのため、バルセロナに戻って、勉強を始める決意を固めたのである。一つの道が閉じられることによって、次の道が開かれてくる。イグナチオはスペインに戻り、新しい道を歩み出す。

◆自らに問いかけてみる◆

①どこか聖地巡礼をしたことがあるでしょうか。その体験は自分にとってどういう意味があったでしょうか。

②苦難の中でイエスの慰めや力づけを感じたことがあるでしょうか。たとえイエスの姿を見なくとも、恵みを受けたことがあるでしょうか。

IgnatiuS 500 イグナチオ年

〈特別寄稿〉聖イグナチオと私

聖イグナチオの霊操に出会って・・・

援助修道会　シスター　野本佳子

当然のことながら、霊操の祈りをあみ出した聖イグナチオに直接お会いしてはいませんが、イエズス会の神父様方との出会いやイグナチオの自叙伝を通して、聖イグナチオに出会ったと言えるのでしょう。私の人生を振り返ると聖イグナチオの霊性に最初に触れたのはイエズス会の中・高等学校を卒業した大学時代の友人たちの真摯に生きる姿の中でした。

その後、霊操を養成の中心に置き、イグナチオの霊性を生きるようにと招かれている援助修道会に導かれ、入会しました。会員たちは生涯の間に30日間の霊操を2～3回、そして毎年、8日間の霊操黙想で霊的刷新の機会を頂いています。

霊操によって「心・からだ・精神・魂」の神への思いに気づかせ、全人的な祈りの体験を通して、心に湧き出る喜びや促しは私を新しい神への道へと導き、神により固く、深く繋がっていくのを実感し、心にある恐れや不安が消えていました。霊操からの気づきは心の中にある束縛、愛着を取り除き、真の自由な人間へと変えられていくことは大きな驚きです。あるがままに生きるので、生きづらさがなくなりました。実に、霊操は神との一致に向かわせる確かな道の一つの方法です。

イグナチオ回心の500年にあたり、霊操を通して受けた恵みを思い起こすと、霊操は私の人生に大きな影響を及ぼしていたことに気づき、霊操に同伴してくださったイエズス会の神父様方に感謝の念が湧き出てきます。イエズス会の神父様方やイグナチオの霊性を生きる人々を通して、人生の意味や自分の道を探っている人々、救いを求める人々に霊操が広まるよう願っています。

イグナチオ年にあたって教会が組まれた企画の中に「新しく生まれる」イグナチオ講座を入れていただき、祈りと分かち合いによって「霊から生まれる」体験をしています。この講座を霊操の学びの時、神と自己に向き合う時として受け入れていくと、思いがけない恵みや解放感が与えられます！　これ、本当です！

読んでみよう！

教会案内所のシスターに聞きました！ 今、読まれている　聖イグナチオ関連書籍は？

教会案内所（教会正門右手、女子パウロ会運営）では、イグナチオ年関連の書籍を多数取り揃えています。

「5月下旬から始まったオンライン霊操講座での紹介もあり、本を買いに来る方が多いです。5・6月に発売された『ロヨラの聖イグナチオ自叙伝』や『聖イグナチオの30日の霊操』などを購入する方が多く、『目で見る聖イグナチオの霊操入門』（サンパウロ）などもよく求められています。

他には、英神父様の著書で『息吹をうけて』、『道しるべ』（新世社）、翻訳された『イグナチオの足跡をたどって』なども買って行かれます。聖イグナチオ・デ・ロヨラ著の『霊操』（新世社）もよく買われますが、ご指導の元でなければ一人で読むのは少し難しいかもしれません」とシスター。

振り返りのヒントがあるので『黙示録から現代を読み解く』『自己の内面を読む』（ともに女子パウロ会）なども、読みっぱなしではなく内面に向き合うことができて、「読書の秋」にふさわしいとのお話でした。（担当S）

案内所でよく購入されている本

（すべて税込み）

- **『ロヨラの聖イグナチオ自叙伝』**聖イグナチオ・デ・ロヨラ 著　アントニオ・エバンヘリスタ 訳　李聖一 編　ドン・ボスコ社　770 円
- **『聖イグナチオの 30 日の霊操』**ホアン・カトレット 著　聖母の騎士社　1,870 円
- **『息吹をうけて』**英隆一朗 著　夢窓庵　629 円
- **『イグナチオの足跡をたどって』**アントニオ・ベタンコール 著　英隆一朗 訳　夢窓庵　525 円

Family of St.Ignatius

～英語圏から～

教会に行けない日々がとても長かったですね！　４度目の非常事態宣言が解除されて本当によかったです！

英語版の教会報『Bulletin』で、とりわけご紹介したい記事は、教皇フランシスコの告解の新しい見方について、コロナを克服された方の記事、教会祭などです。

11 月はイグナチオ教会の枠を超え、第３回日本カトリックカンファレンス（NCACJ）に参加されることをお勧めします。ここでは「日本における教会」の過去と現在を垣間見ることができます。スピーカーの内２人は、私たちのよく知っているレンゾ・デ・ルカ SJ　イエズス会日本管区長、そして、国際青年グループのリーダーの一人ミゲル・エヴァンジェリスタ氏です。

私たちはひとつの大きな多文化の教会としてもう一度集まれたことで、まさに私たちの中心に主イエス・キリストがおられるのを目の当たりにすることができた喜びを神に感謝します。

● 10 月の宣教司牧評議会からのお知らせ●

（10 月７日実施）

秋の教会黙想会

日　時　：　11 月 23 日（火・祝）　午前中
場　所　：　主聖堂
テーマ　：「聖イグナチオの生き方にみる人とのつながり
　　－希望の扉を開くために－」
定　員　：　100 名 ネット申込（個人）
　　YouTube 配信あり。

詳細、参加申込み方法は教会ホームページをご覧ください。

クリスマスミサ

12 月 24 日（金）　クリスマスイヴミサ
　12 時　高齢者優先ミサ
　15 時
　17 時
　19 時　キャンドルサービス付き
　21 時　英語

12 月 25 日（土）　主の降誕の祭日
　　主日と同じ時間

26 日（日）　聖家族の祝日
　　主日と同じ時間（７時ミサはなし）

実行委員会を立ち上げ、詳細や申込方法を検討し、皆さまにお知らせいたします。

2021 年度教勢調査の集計報告

10 月２日（土）、３日（日）実施
今年も各ミサ参加者数が限定された中の集計です。

日本語ミサ・・・男 152 人　女 357 人　合計 509 人
外国語ミサ・・・男 196 人　女 348 人　合計 544 人

日本語 7 時、18 時ミサは少なく、昨年度比で 50 人程減っています。

●財務報告●

ミャンマーの人々のための献金（8 月 8 日）669,991 円を東京教区へ送りました。
ご協力ありがとうございました。

● 2021年クリスマスミニバザーのお知らせ●

日時　：　11 月 28 日（日）、12 月 5 日（日）
　　頒布品があれば翌週も実施
時間　：　9 時～ 12 時 15 分まで

・コロナ禍により、感染予防対策を徹底し、小規模ミニバザーとして屋外にて実施します。
・1 回に 1 ～ 2 グループの出店、合計 3 ～ 4 グループの参加を予定。

※今回、頒布品用の献品は受付ません

献金はイグナチオ教会を通じ、困難な状況にある方々への支援金とします。
ご協力をよろしくお願いします。

クリスマスバザー実行委員会

訃報（R.I.P.）**三浦　功 神父**

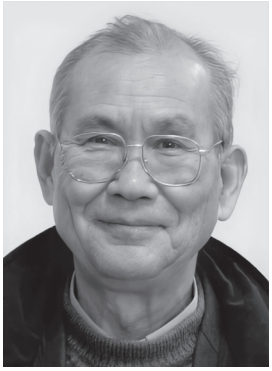
10 月 11 日(月）ロヨラハウスにて帰天されました。90 歳。

葬儀は 10 月 14 日(木)、聖イグナチオ教会で新型コロナウイルス対策により非公開（オンライン配信）で執り行われました。

三浦神父様は聖イグナチオ教会で、1977 年アメリカから帰国した 7 月から 1978 年 3 月まで助任司祭を、晩年岐部修道院におられた 2020 年 3 月から 7 月まで告解担当司祭をされました。

略歴

1930 年 12 月 2 日　山口県下関生まれ
1957 年 3 月 31 日　イエズス会入会
1966 年 3 月 18 日　司祭叙階(東京)
1968 年～ 1970 年　宇部教会助任司祭
1971 年～ 1976 年　宇部教会主任司祭
1976 年～ 1977 年　米国セントルイスで共同司牧研修
帰国後　聖イグナチオ教会助任司祭
1978 年～ 1980 年　宇部教会主任司祭
1980 年～ 1986 年　長府教会主任司祭(下関)
1986 年～ 1988 年　庚午カトリックセンターで司牧(広島)
1988 年～ 1992 年　大船教会主任司祭
1992 年～ 2000 年　萩教会主任司祭
2000 年～ 2006 年　下関ブロック彦島教会担当
2007 年～ 2008 年　大船修道院で司牧
2008 年～ 2014 年　鎌倉黙想の家で司牧
2014 年～ 2020 年　聖心の布教姉妹会(藤沢)の司祭館で司牧
2020 年 3 月～　岐部修道院
2020 年 8 月～　ロヨラハウス
2021 年 10 月 11 日帰天



11 月の典礼と行事

1　（月）　諸聖人の祭日	
2　（火）　死者の日	**死者の日ミサ　12：00　18：00**
5　（金）　初金曜日	
6　（土）	**2020 年度合同追悼ミサ（第 2 回　非公開ミサ）　10：00　主聖堂** **七五三祝福式　15：30　主聖堂**
7　（日）　年間第 32 主日	
14　（日）　年間第 33 主日	子どもとともにささげるミサ　10：00　**貧しい人のための世界祈願日**
21　（日）　王であるキリストの祭日	**堅信式（第 3 回）　10：00 ミサ**　**ミャンマーデー** **教会活動連絡会議　13：00　ヨセフホール**　**聖書週間（21 ～ 28 日）**
23　（火）	**教会黙想会**
24　（水）	聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う 9 日間の祈り（～ 12 月 2 日まで）
28　（日）　待降節第 1 主日	**クリスマスミニバザー①**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。

●カレーの会からのお知らせ●

カレーの会では、12 月 20 日（月）に生活困窮者の方々に、クリスマスプレゼントを配布します。下記の品をご寄付いただければ有り難いです。

①お菓子（賞味期限が有効な品）　②使い捨てカイロ（賞味期限が有効な品）
③スポーツタオル（新品でロゴが入っていない品）
④靴下（新品）　⑤長袖下着（新品）⑥手袋（新品）　その他、カレーのルー

受付締切　：　12 月 14 日（火）　宅急便等での発送も受付可

ご協力をよろしくお願いいたします。

カレーの会スタッフ一同

主任司祭：英　隆一朗
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　柴田　潔
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　グエン・タン・ニャー
　　マヌエル・シルゴ
ブラザー：吉羽　弘明
シスター：イベッテ・サンチェス
　　（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
　　（ジョン・デ・ブリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間　Mass

【平日 Weekday】
7 :00（聖体顕示）主聖堂　Main Chapel
12:00/18:00（ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認）

【日曜日 Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00/7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）/16:30（English）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）

【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

マジスへのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。